

平成24年度受賞者一覧表

安田医学賞（研究助成）

（敬称略）

氏名	所属	研究課題
野村 大成	独立行政法人医薬基盤研究所 プロジェクトリーダー	放射線被曝による継世代発がんに関する研究

癌研究助成

（敬称略・五十音順）

氏名	所属	研究課題
石井 秀始	大阪大学大学院消化器癌先進化学療法開発学 教授	難治性消化器癌の革新的なRNA創薬・治療の実現化
伊藤 彰彦	近畿大学医学部 教授	偽足突起のプロテオミクスに基づく癌浸潤effector分子の同定
遠藤 元誉	熊本大学大学院生命科学研究部 助教	発がん、がん浸潤・転移における慢性炎症病態解明と新規治療法開発
北川 雅敏	浜松医科大学医学部 教授	癌抑制遺伝子産物Mig-6の翻訳後修飾と癌抑制機能の制御機構の解明
下野 洋平	神戸大学大学院医学研究科 准教授	ヒト乳がん幹細胞の浸潤に関わる細胞接着機構
瀬谷 司	北海道大学大学院医学研究科 教授	抗がんペプチドワクチン療法に必須の免疫アジュバントの開発

若手癌研究助成

（敬称略・五十音順）

氏名	所属	研究課題
粟井（塚本）博丈	熊本大学大学院生命科学研究部 助教	CD4 ⁺ T細胞を介した抗腫瘍免疫応答に対する可溶性IL-6受容体の影響の解析
異島 優	熊本大学薬学部 助教	‘シンプルDDS’技術を駆使した次世代型高分子抗癌剤の創製
及川 大輔	群馬大学先端科学研究指導者育成ユニット 研究員	小胞体ストレス応答によるエクソソームを介した腫瘍抑制機構の探索と解明
大澤 陽介	岐阜大学大学院医学系研究科 講師	大腸由来転移性肝臓癌におけるスフィンゴミエリナーゼの生体防御機構の解析と、スフィンゴ脂質を用いた抗癌治療の開発
片岡 圭亮	東京大学医学部附属病院 特任助教	骨髄増殖性腫瘍の白血病進展マウスモデルの作成および解析
加藤 洋人	北海道大学遺伝子病制御研究所分子腫瘍分野 助教	世界初となる細胞競合マウスモデルの樹立
田村 郁	東京医科歯科大学医学部附属病院脳神経外科 助教	幹細胞とmicroRNAを用いた悪性脳腫瘍の新規治療法の開発
丸山 玲緒	札幌医科大学 助教	ピロリ菌感染の慢性胃炎や胃癌において中心的な役割を果たす長鎖ncRNAの網羅的探索
三木 貴雄	京都大学医学研究科 特定助教	がん抑制遺伝子p53による概日リズム制御機構の解析
安田 浩之	慶応義塾大学医学部呼吸器内科 助教	稀なEGFR(Epidermal Growth Factor Receptor)遺伝子変異を有する肺癌の、EGFR tyrosine kinase inhibitors (EGFR-TKIs)への薬剤感受性予測検査とその臨床応用

海外研究助成

（敬称略・五十音順）

氏名	所属	研究課題
高阪 真路	北海道大学大学院医学研究科 博士研究員	肉腫における抗癌剤耐性に関わるmicroRNAの同定と個別化治療への応用
諸石 寿朗	九州大学生体防御医学研究所 学術研究員	Hippoがん抑制経路の制御機構の解明と肝臓がんにおける役割

平成24年度受賞者一覧表

癌看護研究助成A

(敬称略)

氏名	所属	研究課題
宮下 光令	東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野 教授	看取りのケアの質の評価尺度の開発と信頼性・妥当性の検証

癌看護研究助成B

(敬称略・五十音順)

氏名	所属	研究課題
近藤 由香	信州大学医学部保健学科 准教授	手の指圧・マッサージががん患者の倦怠感と唾液中コルチゾールに及ぼす影響
徳岡 良恵	大阪府立大学看護学部 助教、がん看護専門看護師	がん看護外来における高度看護実践と成果に関する基礎研究
中尾富士子	熊本大学大学院生命科学研究部環境社会医学部門看護学講座 准教授	癌治療に伴う続発性リンパ浮腫に関する看護師への教育支援体制構築に関する研究
山崎 恭子	東海大学健康科学部看護学科 准教授	訪問看護師によるがん患者の就労支援への活用の可能性と今後の課題

癌看護研究助成(大学院学生)

(敬称略・五十音順)

氏名	所属	研究課題
井内 映美	金沢大学大学院医学系研究科	日本の外来における続発性リンパ浮腫ケア質評価指標に関する横断的研究
梅田 恵	聖路加看護大学大学院看護学研究科	がん看護におけるコンサルテーションの活用を促進するための研究
越智 幾世	京都府立医科大学大学院保健看護研究科	化学放射線同時併用療法を受けている頭頸部領域がん患者の口腔ケアを継続する要因の解明
畠山 明子	大阪大学大学院医学系研究科	大腸がん患者におけるEGFR (Epidermal Growth Factor Receptor) 阻害剤の治療で体験する皮膚症状のつらさが日常生活、情緒、治療意欲、皮膚セルフケアに及ぼす影響
平澤 宏卓	名古屋大学大学院医学系研究科	入院がん患者の痛みアセスメントに役立つ「タブレットPC版ペインメモリー」の臨床における有用性の検討